

## 自己評価報告書

平成 23 年 5 月 14 日現在

機関番号：33925

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2012

課題番号：20520534

研究課題名（和文） 初等教育における新しい機器を利用した英語教育研究－3年間の実践と追跡調査を中心に

研究課題名（英文） Use of New Equipment in Elementary English Education: A Three-Year Study and Follow-up Survey

研究代表者

大岩 昌子 (OIWA SHOKO)

名古屋外国語大学・外国語学部・准教授

研究者番号：50340360

研究分野：音声学、第2言語習得研究

科研費の分科・細目：言語学、外国語教育

キーワード：電子耳装置、英語音声教育、聴覚音声学理論、音声習得、聴覚心理的分析

## 1. 研究計画の概要

最も英語教育の早い段階、すなわち小学校にこの OE 装置によって聴覚を英語に適応させる準備教育を導入した際の効果を考察、さらには文法的内容を学習する中学まで追跡調査することで、音声授業等で人材が確保されなくとも持続可能な音声教育法を探り、さらには小～大学での外国語音声教育の全体像を模索する端緒をつかむことが本研究の目的である。具体的な計画概要は以下の通りである。

(1) 小学校における音声教育の取り組みの実態調査

公立小学校への聞き取り調査により、外国語教育、とりわけ音声教育の実態、担当教員の意識調査など全国レベルで行い、現在進行している音声教育の実態を明らかにする。

(2) 特定の小学校における OE 装置の聴覚刺激音による授業の試行と効果の測定

公立小学校で英語教育を受けている5年次生、6年次生に OE 装置の聴覚刺激音を聴取させる。実験群には同装置を用いた発声教育も含めていく。3ヶ月ごとに英語の発音を収録、音声分析を行うことで、両群の音声面の特徴を分析、検討、同方法の効果を測定する。

(3) 中学進学後の英語の音声面、動機づけなどに関する追跡調査

中学に進学同生徒等の音声面、動機づけでの面で追跡調査することで、OE 装置による音声教育の効果を検討、持続可能な音声教育法としての有効性を探り、さらには小学校～大学での一貫した外国語音声教育構築のための示唆を提示する。

## 2. 研究の進捗状況

(1) 実態調査：小学校の英語教育への取り組みについて、小学校英語教育学会での発表、名古屋教育委員会への聞き取りなどを中心に検討した。

(2) 実験

実験は名古屋市内の公立小学校、一校に在籍する5年次生および6年次生の児童を対象とした。英語部を新設し、実験はこの部活動を利用したため、自発的な児童が対象である。1回につき約1時間の実験時間を設定した。なお、全児童は年に4～6時間の教育委員会から派遣される ALT による英語の授業を受けていた。実験のスケジュール、対象人数は以下の通りであった。

第1回：平成21年4月～7月まで20回  
第2回：平成21年9月～12月まで10回  
第3回：平成22年4月～9月まで9回  
第4回：平成22年9月～12月まで10回  
被験者には実験前後で語音弁別テスト、発音テスト、動機づけ調査、英語学習への態度調査など適宜実施した。

(3) 中学生への追跡調査：小学校での実験に参加した生徒を対象に学習ストラテジー、学習の動機づけ等のアンケート調査を実施した。

### 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

当初、対象小学校の変更などがあったものの、これまでの3年間で順調に実験を実施、データ収集を行うことができた。

#### (1) 学習動機づけの調査

対象者の学習動機を調べるために「内発的—外発的動機づけ測定尺度」(桜井 1985)を縮約版にして行った。

#### (2) 語音弁別テストおよび発音テスト

ミニマルペアによる弁別テストと同語音の発音テストを行うことで、実験前後の変化、さらに、知覚産出の関係を検討した。

残念なことは、実験群の設定はできたものの、道義的な問題から、統制群の設定はできなかった点である。

### 4. 今後の研究の推進方策

23年度は引き続き、実験第5回、第6回を行う。これまで電子耳装置による聞き取りのみの効果を測定してきたが、今年度はフォニックスを取り入れ、文字情報や、発音の仕組みの説明を加えた場合に聞き取りがどのように変化するのか、これまでと同様の弁別テストにより検討する。

### 5. 代表的な研究成果

〔雑誌論文〕(計1件)

①著者名：大岩昌子、赤塚麻里

論文標題：初等教育における新しい機器を利用した英語教育研究—3年間の実践と追跡調査を中心に—(研究経過報告1)

雑誌名：英語音声学第14・15合併号

査読の有無：有

発行年：2011

最初の頁と最後の頁：226-233

〔学会発表〕(計4件)

①発表者名：大岩昌子、赤塚麻里

発表標題：初等教育における新しい機器を利用した英語教育研究—3年間の実践と追跡調査を中心に(研究経過報告1)

学会名：日本英語音声学会第14回全国大会

発表年月日：2009年6月27日

②発表者名：大岩昌子

発表標題：電子耳装置を利用した英語教育の試み(経過報告1)

学会名：小学校英語教育学会第9回東京大会

発表年月日：2009年7月20日

③発表者名：大岩昌子、赤塚麻里

発表標題：初等教育における新しい機器を利用した英語教育研究—3年間の実践と追跡調査を中心に(研究経過報告2)

学会名：日本英語音声学会第17回中部支部研究大会

発表年月日：2010年3月6日

④発表者名：大岩昌子、赤塚麻里

発表標題：電子耳装置を利用した英語教育の試み(経過報告3)

学会名：日本英語音声学会18回中部支部研究大会

発表年月日：2011年3月5日